

ご挨拶

代表役員宮司 須崎直衛

雨また雨の異常な冷夏も去り、稔りの秋を迎え、講中、崇敬者の皆様には、ご健勝にご精励のこと、お慶び申し上げます。

式年大祭事業として、平成二年以来進めてまいりました神楽伝修殿建設並びに拝殿修復工事も、三月初め竣功いたし、附随の修繕工事と併せて、ご神域も極めて荘厳に整備いたすことが出来ました。これも偏えに当事業に対し深いご理解を頂き、多大のご浄財をご寄進頂いた皆様方のご協力の賜ものと深く感謝に耐えませぬ。

当社では、古くより十二年毎の酉年は、式年大祭が執り行われ、殊にご神威の高揚の年とされております。本年三月二十五日より五月三十一日に至る間、朝、昼二回、ご本殿の、み扉を開き、祭典を厳修いたして、参詣の皆様親しくご神徳に浴して頂きましたが、お陰を以って、賑々しきご登拝を賜わり、盛大に終了いたすことが出来ました。併せて厚くお礼申し上げます。

式年大祭は過去、昭和二十年酉年は終戦を前に止むを得ず中止されましたが、二十八年ご本殿修築遷座があり、代って臨時式年大祭が執行され、当神社の節目として営まれてまいりました。江戸時代にはお開帳と呼ばれ、二百五十年程前には、江戸護国寺にご遷座申し上げ、出開帳が行われ、江戸の町の多くの参詣人を集めたことも記録されております。

当神社は創建を第十代崇神天皇七年と伝え、平安時代の延喜式神名

帳に大麻止乃豆神社と記され、古くから関東の霊山として、崇められて来ましたが、中世修験の時代を経て、代々神社に仕える世家のご神徳を広める巡廻、宣布と相俟って、御嶽詣が、武蔵、相模を中心に関八州より、甲斐、伊豆、駿河、信濃に及ぶ範囲に次第に盛んになって、講が組織されて、代参を立て、或いは揃って登拝されるようになったと思われまふ。

曾ては秋川添いを日の出町大久野から登る道が、表参道として開かれておりましたが、近世になつて青梅街道が整備されると、多摩川添いの北御坂が開かれてまいりました。大久野より日の出山を経由する南御坂と併せ、旧暦二月八日に始まり、四月八日に至る春山は、御嶽道者といわれた参詣の人達によつて賑わつたことでした。明治維新の折、南御坂の杉並木は伐採され、次第に多摩川を遡る北御坂が表参道に代つていき、昭和四年秋青梅鉄道が二俣尾より御嶽に延長され、やがて昭和十年元旦、ケーブルカーの開通は、南御坂を過去のものと思われたいかれました。

ご祭神を、櫛真智命、大己貴命、少彦名命と仰ぐ御嶽大神のご神徳と、『おいぬさま』として広く知られる大口真神のご守護のもと、平生ともご信心賜わり、ご多幸にご発展あられんことを心からご祈念申し上げます。

発刊によせて

奉賛会長 石川要三

武蔵御嶽神社の名声は地元は勿論、広く全国に及び、その時々々の人の心の拠り所として、又、生活していく上での道標として今日まで果たされて来られた功績は、何にも代える事の出来ない宝であり、私を含め、貴神社を仰ぐ多くの人々が、その守護のもと平穏で充実した生活が営めることに、心からの嵩敬と感謝をするところであり

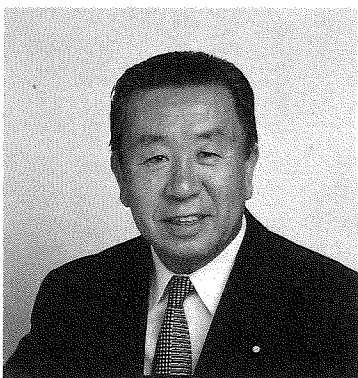
拍手を送らせていただきます。一刻も早く、社報創刊号を手にし、充実した内容に目を通させていだきたい心境です。

その武蔵御嶽神社が、この度、さらに人々の信仰と触れ合いの機会を深め、神社の歴史的重みと役割をよく知って貰うため、社報「武州みたけ」の発刊を企画なされた英断に、図らずも、奉賛会の会長という要職に就かせていた

私事になり、恐縮ですが、過日、政治の道を歩み出して初めての苦杯を喫しました。全く私の不徳の致す所と自らを強く戒めると共に、固い決意を胸に秘め、貴神社を詣でさせていただきます、ご祈願をさせていただきます。

だいている私として、貴神社の心の豊かさや優しさを、改めて感じ、大きな

ご期待申し上げ、社報「武州みたけ」発刊によせてのお祝いの言葉とさせていただきます。



(奉賛会長紹介)

大正14年 元府議會議員・岩浪光二郎の5男として生まれる。

昭和26年 早稲田大学政治経済学部卒業

昭和34年 青梅市議會議員・当選2回(副議長)

昭和42年 青梅市長・当選3回

昭和51年 衆議院議員・当選6回

昭和56年 環境政務次官

昭和57年 外務政務次官

昭和61年 衆議院・内閣委員長

平成2年2月 国務大臣 防衛庁長官

平成3年6月 自民党東京都連合会・会長

平成4年12月 衆議院・予算委員会 理事